



地域共生社会プログラム事業  
Artists in Everywhere

主催=公益財団法人金沢芸術創造財団  
助成=一般財団法人地域創造

発行日=2026年3月

発行者=公益財団法人金沢芸術創造財団 事業課

編集=木下 梢 (アーツカウンシル金沢)

デザイン=株式会社Hikidashi

印刷・製本=田中昭文堂印刷株式会社

# Artists in Everywhere 2025



## 地域共生社会プログラム事業

# Artists in Everywhere

「Artists in Everywhere」は、誰もが、どこにいても、障害や置かれた立場・環境にかかわらず文化芸術を享受できる機会を創出するプログラムです。肩肘張らずに、アートとともにあることでウェルビーイングを目指すための、個々人が持つ創造性を発露しながら、生きがいとしてこれらに関わり、楽しむことのできる可能性を担保する…そうした機会を創出するための、令和7年度のパイロット事業です。

アーティスト・イン・レジデンスという言葉は既に一般化しつつあると言って良いでしょう。昨今ではさらに、社会包摂などのキーワードとともに、「Residence」の部分には「Hospital」や「School」「Office」など、様々なワードが入る機会も増えてきました。これが広がってゆくのなら、もはやアーティストはどこにでもいる…ということになります。

劇場やホール、美術館などのいわゆる文化施設を超えて、アートが普遍的にそこにある、あるいは生じる社会、作り手も享受者も、誰もがアーティストであり得るような環境を目指そうとの「意」を託したキャッチフレーズ（合言葉）として「Artists in Everywhere」という言葉を、プロジェクトを統合するタイトルとしてみました。

初年度の「Artists in Everywhere」では、2つの枠組みを用意しています。一つは、これまでアーツカウンシル金沢でいわゆるアウトリーチ事業として行ってきた教育現場への「お届けアーツ」を拡張し、学校におけるアーティスト・イン・レジデンスとして展開する「Artist in School」です。そしてもう一つが、地域に存在する民間の活動拠点を文化資源と見立て、現地コーディネーターとともに展開する「地域文化資源ショーケース」となります。

将来的には福祉や観光とも繋がりながら、まち全体に新しい文化的commons（共有地）を形成してゆくための一つの起点となる、その第一歩が「Artists in Everywhere」です。

p.03	アーティスト・イン・スクール
p.04	金沢市立湯涌小学校・芝原中学校
p.06	石川県立いしかわ特別支援学校
p.09	地域文化資源ショーケース
p.10	湯涌地区
p.12	ミミラボ
p.13	金石町家(仮)
p.14	アンケート結果

# 1 アーティスト・イン・スクール

アーティスト・イン・スクールは、学校を舞台としたアーティスト・イン・レジデンスのプログラムです。アーティストが一定期間、学校に滞在しながら創作活動を行うことで、周囲の方々と様々な交流を生み出す企画です。必ずしも学校の授業として行うものではなく、アーティストはあたかも転校生であるように学校に通い、その環境を観察し、あるいは学びながら、自らの作品制作を行います。

先生ではない別な大人としての立場から、子供たちとの新しい関わりしるを紡ぐ…アーティストがそこにいることで、学校という場にもう一つの空間：サードスペースを作り出す活動といえるでしょう。学校を中心に活動しながら、児童・生徒はもとより教員や保護者など関係者を通じて、その影響が学校内だけではなく、地域にまで広がっていくことにも期待しています。

令和7年度は、金沢の南部、中山間地域に立地し、小中学校で校舎を共有する全校生徒50名の金沢市立湯涌小学校 & 芝原中学校と、6歳から18歳までの障害のある子どもたちが、それぞれの特性に合わせたクラスで自立や社会参加を目指して学んでいる石川県立いしかわ特別支援学校という2つの拠点で開催しました。それぞれの学校で、校長・教頭先生のご理解のもと、多くの教員の皆様にご協力いただいています。



## 金沢市立湯涌小学校・芝原中学校



1 3・4年生11名を対象に行った「湯涌に咲くまぼろしの花」をテーマにしたワークショップの様子。作品はその後、教室内の掲示板上に展示。2 文化祭にて、桜井氏作品の展示の様子。3 文化祭には多数の保護者が来場し、桜井氏が地域住民と交流する機会となった。4 似顔絵と日記の交換の様子。

**滞在期間**

2025年10月3日(金)～10月24日(金)

**展示期間**

2025年10月27日(月)～11月7日(金)

**在籍人数**

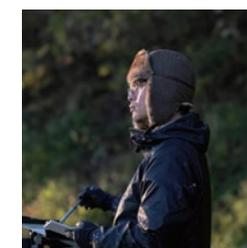
湯涌小学校 児童30名  
芝原中学校 生徒20名、教職員27名

約10日間の滞在中で、桜井氏は各日異なる教室の朝の会・給食に「転校生」という立場で参加しました。休み時間や放課後にキャッチボールなどで児童生徒と遊んだり、「似顔絵と日記の交換」を行ったりして交流を深め、小学3・4年生とは協働して図工の時間にワークショップを実施。保護者や一般の来場者も来校できる文化祭や学校公開週間では児童生徒の研究発表や図工の作品とともに、滞在中に制作した油絵3枚と20枚以上のスケッチを展示しました。児童生徒からは「似顔絵を描いてもらって嬉しかった」「また湯涌に来て色々な場所を描いてほしい」などの感想をいただきました。(コーディネーター・金谷亜祐美)

### スケジュール

10/3(金)	集会にて自己紹介
10/6(月)、10/7(火)、 10/9(木)、10/10(金)、 10/16(木)、10/20(月)、 10/21(火)、10/22(水)、 10/23(木)、10/24(金)	滞在
10/22(水)	ワークショップ 「湯涌に咲くまぼろしの花」
10/24(金)	文化祭
10/27(月)～11/7(金)	展示期間

### アーティスト



画家

**桜井 旭**  
Sakurai Akira

1996年 兵庫県明石市生まれ。2025年 金沢美術工芸大学大学院博士後期課程修了。現場で実際にモチーフを観察しながら絵画を制作。制作中に生じるコミュニケーションや予測不可能な現象から、自身のリアリティーが多様化され表現が変化する。モチーフは身の回りのものやよく行く喫茶店など、日常的な風景ばかり。最近は滞在中制作や公開制作を通して、自分の知らない場所で描くことが増えてきた。

## 石川県立いしかわ特別支援学校



1 クラスで紙芝居をするカトさん。2 カトさんの基地となった災害時の避難体験用テント。3 熱心に撮影する児童。4 展示・ワークショップの解説看板。

**滞在期間**

2025年10月20日(月)～10月31日(金)

**展示期間**

2025年11月4日(火)～11月15日(土)

**在籍人数**

小学部 児童171名、中学部 生徒130名  
高等部 生徒194名、教職員253名

撮影枚数も限定され、その場では何がどう撮れたかわからないレンズ付きフィルムカメラ…いわゆる「写ルンです」を渡された子どもたちの目の色が輝きます。写真家・フォトアーティストであるカトトモコさんは2週間に渡り、学校の大きなエントランスホールに設置された災害時の避難体験用テントを居場所としながら校内を探索、自ら撮影するだけでなく、子どもたちにもカメラを手渡して「糸の壁」を用いた大きなインスタレーションを制作しました。皆の手によって撮影され、空中に浮かぶかのように出現した校内の様々な物語が、学校の公開週間を通じて多くの来校者の方々に公開されました。(統括ディレクター・黒澤伸)

### スケジュール

10/20(月)～10/24(金)、 10/27(月)～10/31(金)	滞在
10/20(月)～10/23(木)	使い切りカメラワークショップ
11/4(火)～11/15(土)	展示期間
11/15(土)	文化祭

### アーティスト



写真家  
**カトトモコ**  
Kato Tomoko

1974年 石川県金沢市生まれ。写真を軸に、詩、ドローイング、本や手書き新聞の制作も。日本各地で個展、グループ展を開催。「写真は楽しい！」をコンセプトに、こどもも大人も参加できるアート活動を展開。近年は、「おさんぽカメラ写真ワークショップ」や「BOOK会～あなたの好きな本聞かせてください」を継続的に開催。

## 石川県立いしかわ特別支援学校 ポップアップコンサート&身体表現ワークショップ

いしかわ特別支援学校では、カトトモコさんの滞在に加えて、クラシックコンサートと身体表現ワークショップを開催しました。クラシックコンサートでは近隣住民への広報を行い、地域の人にも訪れて共に楽しめる空間となりました。

た。身体表現ワークショップではクラスごとに実施し、友達や先生と一緒に身体表現を行ったほか、折り紙や楽器を織り交ぜ、様々な表現に触れられる時間となりました。



### ポップアップコンサート

昼休みに、みんなで楽しめるクラシックコンサートを開催しました。ヴァイオリニストのジドレさんが演奏しながら歩いて回り、間近で音色を聴くことができました。

- 日時 2025年6月23日(月) 12:50~13:10
- 参加者数 約326名(うち児童生徒教職員約300名、地域の方・保護者等26名)
- 出演 Trio di Kosmoz(トリオ デイコスモス)  
ジドレ(Vn)、生水敬一郎(Bn)、松永みなみ(Pf)



### 身体表現ワークショップ

歩いたり、止まったりという日常で行う動作から始まり、だんだんとダンスを生み出していきます。ヤマダベンさんの音楽を聴きながら、自由な表現を楽しみました。

- 日時 2025年11月26日(水)
- 参加者数 44名 9:30~10:15 小学部6年 22人  
10:40~11:25 小学部2年 22人
- 出演 なかむらくるみ(ダンスアーティスト)、ヤマダベン(パーカッション奏者)、松田百世(ダンサー)

## 2 地域文化資源ショーケース

まちなかの遊休スペース等を文化資源として活用し、地域の人々とアーティストとの交流を図るワークショップなどを通じて、文化芸術の交流拠点を創造、並びにこうした活動に関わるコーディネーターやオーガナイズしてゆく機能・ネットワークを育ててゆくプログラムです。

令和7年度はこのパイロット事業のタイアップ先として、NPOの運営により既に文化活動拠点としての実績を作り始めている2箇所を選択しました。一つは金沢市の北部、日本海に面し、北前船の面影を残す歴史ある港町に立地する「金石町家(仮)」と、もう一つは市の中心部に立地し、小学校高学年~高校生たちのためのクリエイティブな秘密基地となっている「ミミミラボ」…いずれもいわゆるサード・プレイスとしての特徴を持つ拠点です。金石町家(仮)では人形劇やダンス公演を展開、ミミミラボでは、そこに通う高校生と、若手のヒップホップアーティストとの出会いを画策しました。

さらにもう一つは、温泉街を擁する中山間地域である湯涌地区です。こちらは地域全体を拠点と見立て、アーティストがそこに在住する様々な「人々」や「場」や「コミュニティ」それぞれとの関係づくりからスタートする企画です。ここでいうアーティストとは、現役大学生による劇団「遊学生」。彼らは地域に滞在&ヒアリングを重ね、取材内容に基づきながら新たな物語を創作・脚本化、最終的には演劇作品として上演の形で発表しました。地域固有の歴史、人口減少という課題、交流人口拡大への期待を、地域内外のオーディエンスとともにリアルに体験するプログラムとなりました。



## 湯涌地区



**滞在期間**

2025年8月18日(月)～9月12日(金)

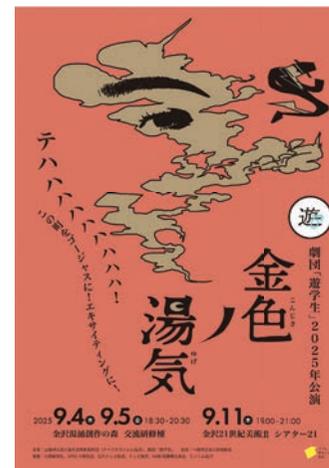
**公演日**

9月4日(木)・9月5日(金) 金沢湯涌創作の森  
9月11日(木) 金沢21世紀美術館 シアター21

**観客数**

9月4日(木)48名、9月5日(金)52名、  
9月11日(木)120名

劇団「遊学生」が湯涌地区に滞在しながら演劇の制作と公演を行いました。自分たちの足で地域の人々を訪ね歩き、集落ごとに残る伝承や歴史、暮らしや語りに耳を傾けながら団員それぞれが持ち帰った発見・記憶、気づきや学びを一つの物語：フィクションとして編み上げます。完成したファンタジーコメディ演劇「金色ノ湯気」は架空の町の銭湯を舞台としながら人口800人程のこの地域のリアルを多角的な角度から浮き上がらせ、あたかもそれが時空を超えたもう一つの「湯涌」で起こった物語であるかのよう…創作する側＆見る側が笑いとともに、日常では得られない様々な問いを発見する機会となりました。湯涌公演には滞在を通して知り合った多くの地元の方々が駆けつけ、金沢21世紀美術館での公演では、県内外の人々が湯涌地区を知る機会となりました。



### スケジュール

5/23(金)～5/26(月)	湯涌にてリサーチ
6月～7月	演劇作品の制作
8/18(月)～	湯涌に滞在、公演の稽古
9/4(木)・9/5(金)	公演(金沢湯涌創作の森)
9/11(木)	公演(金沢21世紀美術館 シアター21)

### アーティスト



2025年度  
劇団「遊学生」  
Yugakusei

劇団「遊学生」は、大学生たちが地域に滞在し、その土地で出会った人びとや風景から演劇をつくる集団。2020年、元文部科学副大臣・鈴木寛氏が主宰する東京大学・慶應義塾大学の「すずかんゼミ」共同プロジェクトとして発足。毎年メンバーを入れ替えながらこれまで、兵庫県の豊岡、香川県の三豊、鳥取県鳥取市の用瀬に足を運び、そこでのフィールドワークをもとにした演劇作品の創作・上演を行ってきた。

## ミミミラボ



制作期間	2025年5月～12月
レクチャー	8月8日(金)、8月20日(水)、8月21日(木)、 8月22日(金)、8月27日(水)、8月28日(木)
MVお披露目会	12月14日(日)
MV制作参加者数	25名
レクチャー参加者数	延べ44名
お披露目会参加者数	18名

### スケジュール

4月	ミーティング
5月～6月	ビート制作・ロゴ制作
7月	レコーディング会
8月	ラップミュージックのレクチャー(全6回)
9月～10月	楽曲制作
11月	MV撮影・編集
12月	MV完成・お披露目会

ミミミラボを拠点にラップコミュニティ「金沢サイファー」と協働し、HIPHOP・デジタル・教育を横断する制作プログラム「CypherDNA」を実施しました。HIPHOP文化やラップについてのレクチャー、録音見学などを通して子どもたちが表現の背景や技術に触れる機会を創出しました。後半にはMVの撮影を行い、子どもたちも撮影現場を間近で見学し、映像の冒頭部分に出演者として参加しました。ラッパーやエンジニア、美大生、映像作家などが制作に関わる現場を目の当たりにすることで子どもたちにとって普段接することのない文化や技術に触れる機会になりました。完成した映像はお披露目イベントにて上映し、トークセッションを通して制作背景やプロセスについて共有しました。(ミミミラボ・吉川永祐)

制作されたMVはアートカウンシル金沢のYouTubeチャンネルで配信中です。

<https://www.youtube.com/@artscouncilkanazawa>



## 金石町家(仮)



金沢の港町にあるコミュニティスペース「金石町家(仮)」にて、地域の人が普段目にする機会が少ない文化芸術に触れられることを目的に、人形劇、コンテンポラリーダンス、演劇の3プログラムを実施しました。



### ダンボールシアター『Yummy!』

旅に出たヤミィが会ったのは、おいしいものと『仲間』でした。全部ダンボールで作った大人も子どもも楽しめる人形劇を開催しました。

日時 2025年8月5日(火)～8月7日(木) (5回公演)

観客数 延べ56名

出演 渡辺ゆば



### 「みる・しる・つながる」コンテンポラリーダンス Creation of Discovery

「江戸時代」がモチーフの誰でも気軽に楽しめるダンスイベントを開催。町家全体を“お化け屋敷”の様に演出してパフォーマンスが行われました。

日時 2025年8月23日(土) 11:00～16:00

観客数 延べ75名

企画 北陸つなげて広げるプロジェクト



### ナゾのまじんきたる

まじんはいつでてるのかなあ!? 今日も「つぎはまた明日」。大人も子どもも楽しめる、不思議な“大人こども劇”を開催しました。

日時 2025年10月11日(土)～10月13日(月・祝) (3回公演)

観客数 延べ50名

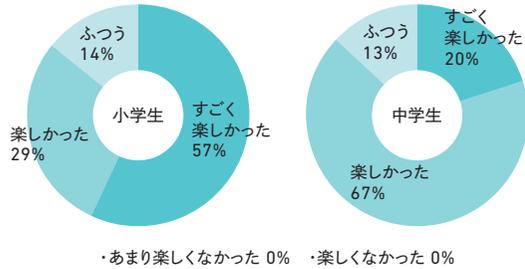
出演 札幌ハムプロジェクト

# アンケート結果 [アーティスト・イン・スクール]

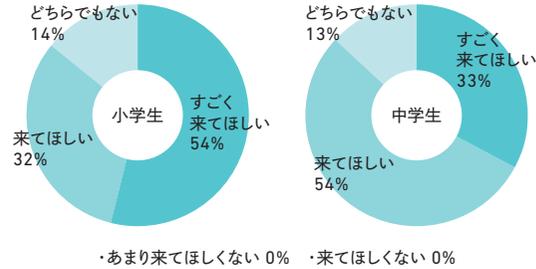
## 金沢市立湯涌小学校・芝原中学校

### ● 児童生徒へのアンケート | 有効回答数:43

桜井さんが学校に来て、楽しかったですか？



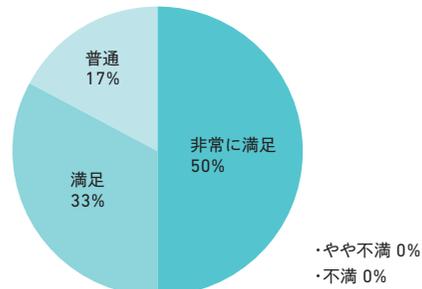
またアーティストに来てほしいと思いますか？



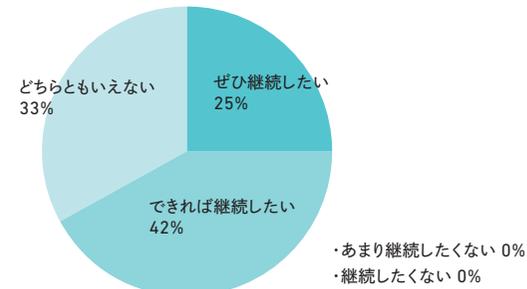
**[感想(児童生徒)]** にお絵を書いてくれたことがうれしかったです/給食をいっしょに食べながら話してくれて楽しかったです/3・4年生ぜんいんでかいた絵が心にのこりました/キーボードをひいてる様子や授業をしている様子などたくさん絵をかいてくれました。トレーニングルームの絵がとてリアルでおどろきました。

### ● 先生へのアンケート | 有効回答数:12

アーティスト・イン・スクールの満足度



今後も継続してみたいと思いますか？



### **[感想(先生)]**

- ・放課後、当番のときに施錠のため、アトリエにしている教室に入ったらずっといられそうなくらい、別世界になっていて驚きました。もっと伺いたかったのですが、行けなかったのは、自分自身職場では気持ちの余裕があまりないのかも…という悲しい発見がありました。
- ・普段の学校や周辺の風景が絵になり残されていくことは学校にとっても大変貴重なものになると感じました。
- ・学校はともすれば閉じられた空間になりがちなので、全く別の世界で活躍されている方が、そして先生以外の大人が学校内に

いるというのはおもしろい取り組みだと感じました。  
 ・欲を言えば、滞在日数を増やすことができれば、作品制作や子どもたちと一緒に過ごす時間、職員と関係を作る時間をもっと作ることができたのではないかと思います。子どもたちとアーティストとの関りが多ければ多いほど、深ければ深いほど、子どもたちにとっては良い効果が得られるのではないかと思います。教職員が間に入り、関係づくりをするサポートができれば良いのですが、校務に追われながらその働きを行うには時間が足りなかったと思えました。

## 石川県立いしかわ特別支援学校

### ● 学校へのアンケート | 有効回答数:1

アーティスト・イン・スクールの満足度

- 非常に満足  満足  普通  やや不満  不満

アーティスト・イン・スクールを今後も継続してみたいと思いますか？

- ぜひ継続したい  できれば継続したい  
 どちらともいえない  あまり継続したくない  継続したくない

### **[感想(先生)]**

- ・普段の授業では体験できない活動が入り、学校全体が明るい雰囲気となり、活動を通じて自分の個性を出せる場が広がりました。
- ・言葉だけでなく、身体や作品を通じて子どもと関わる方法の可能性を感じました。
- ・活動を通じて、普段は静かな子が、音楽に合わせて体を動かしたり、写真撮影を積極的に行う姿が見られたり、児童生徒の意外な一面を知る機会となりました。
- ・先生方はホントに毎日素敵な子どもたちに囲まれて羨ましいで

- す」という言葉で、日々私たち教員は幸せな環境で働いているんだなということに改めて気づかされました。カトさんの素直で純粋なコメントや発する言葉がとて温かく、児童生徒はもちろん教員も癒されました。
- ・普段は消極的な児童生徒が積極的に写真を撮り、笑顔を見せたり、リハビリが苦手な生徒がカメラを片手に自ら歩いたりする姿を見て、芸術の力のすごさを目の当たりにしました。

## コーディネーターからのコメント

### 金沢市立湯涌小学校・芝原中学校

札幌でのアーティスト・イン・スクールの実例を知ったとき、アーティストが子どもたちと同じ時間を過ごしながらか関係を築いていく姿に心が躍りました。授業時間以外にも関わりが生まれることで子どもたちの心に深く届き、またアーティストにとってもノスタルジーと新たな発見を往復しながら感性を刺激される貴重な機会になったと感じています。継続にあたっては受け入れ体制や保護者の理解など課題もありますが、それを越えた先に確かな価値があると実感できた第1回目でした。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。(金沢アートグミ・金谷亜祐美)

### 石川県立いしかわ特別支援学校

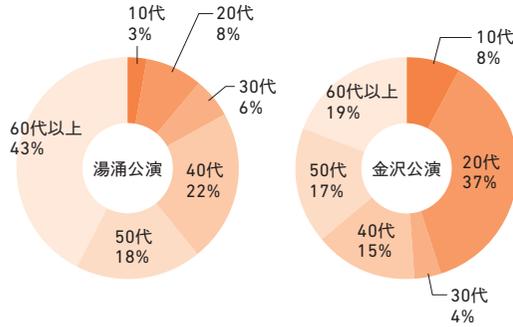
「カメラを受け取った子どもたちが本当に大喜びしているんです」担当の先生方やカトさんからそう聞いた時、このプロジェクトは上手くゆくこと確信した。  
 あとは、展示だけだ！今回、アーティストが広い学校内で拠点とした場所は児童生徒たちの災害時の模擬訓練用にと学校の玄関口：エントランスホールに置かれたテントである。そこはこの学校の誰もが必ず毎日通る場所-ここに陣取ったことで全校の児童生徒のみならず教職員・スタッフまで、新しいプロジェクトのスタートの周知はあっという間だった。すぐ横の空間では柱にワイヤーが張られ、毎日&毎日少しずつ、淡い色合いの糸が一本一本吊られてゆく。やがて透明で柔らかな面として姿を現すその作業の進捗を見守ること自体が、多くの期待を生み出した。最後に立ち現れた光景は、「好奇心の雲」のようだった。(アーツカウンシル金沢 統括ディレクター・黒澤伸)

# アンケート結果 [地域文化資源ショーケース]

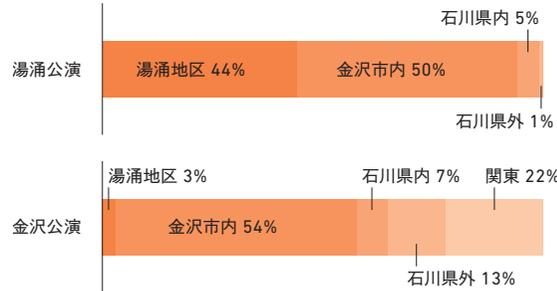
## 劇団遊学生『金色ノ湯気』

### ● 観客へのアンケート | 有効回答数:178

ご年齢を教えてください



本日はどこから来られましたか?



### [感想(観客)]

- ・ほんとに久しぶりのこういった演劇を見るにつけ、湯涌の現実に大きく危機感を覚えています。今の湯涌のさびしさに反省しきりです。貴女・貴男達のハツラツとして姿を見て、参加できたことを嬉しく思います。湯涌に来て下さり、本当に感謝しております。こういった機会がまたほしいです。
- ・本当に大事なことってもうあるんだなってあらためて気づかせてもらいました！湯涌にもすでにある豊かさを次世代につなげていこう！って思えました！湯涌に来てくれてありがとうございます！
- ・この地区の日頃の葛藤を表現されていたと思います。小さいこ

- とからでも、前を見つめて、ホタルのような光でも探りながら地域みんなでスクラムを組んでいきます。行き詰まったら、みなさんのことを思い浮かべて、立ち上がって進みます。
- ・少子高齢化、過疎化、地方の画一化などの地域でも多かれ少なかれ問題になっているテーマについて、ここまで現実味をもって描写されているのはやはり実際の経験からかなと思いました。とても興味深く、考えさせられる内容でした。
- ・長丁場でテンポの速い演技で練習は相当大変だったろうと思います。コミカルにシリアスに日本の問題を指摘してくれました。強烈な皮肉もありました。考えさせられますね。

## 劇団「遊学生」代表からのコメント

### 大好きな金沢、湯涌にこの演劇を“くべる”ことができたら

私は金沢で生まれ育ち、大学進学を機に東京で暮らすようになりました。外から故郷を眺めることで、当たり前と思っていた金沢の豊かさや文化の奥行きに改めて気づき、胸を張って語れるようになりました。そして今回、その金沢の奥座敷である湯涌を題材に作品を創り、こうして地元で上演できることを心から嬉しく思います。

湯涌は、私にとって近くにありながら未知の場所でした。けれども春から何度も通うなかで、人々の温かさや、どこか懐かしさ

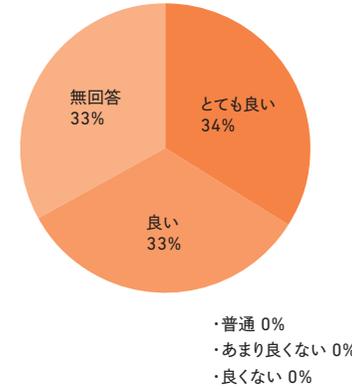
を帯びた物語の数々に出会いました。そこには、日常に潜む笑いや熱気があり、時に眠っていた記憶を呼び覚ますような、不思議な力がありました。

私たちは、その静かな熱に小さな「火をくべる」ようにして、この作品をつくってきました。今日この時間が、皆さまにとって心に小さな火を灯すひとときとなりますように。そして多大なご協力をいただいた湯涌の皆さま、そして足を運んでくださった皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。(代表・原嶋空)

## ミミラボ

### ● ミュージックビデオ制作に携わった方へのアンケート | 有効回答数:6

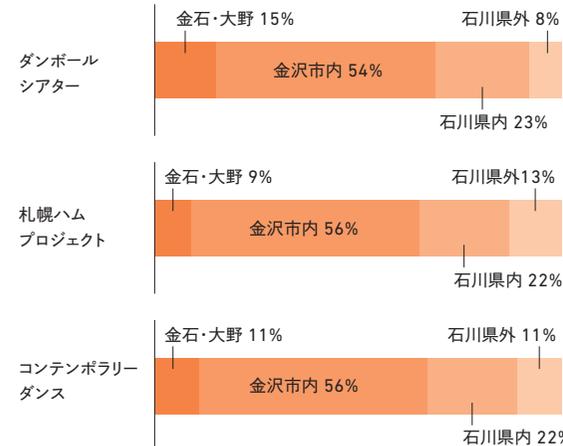
完成したミュージックビデオはいかがでしたか?



- ・普段、なかなかかかわることの無い人達をつなげ交流できました。HIPHOP×NPOとあまりイメージのない関係ですが、互いにリスペクトを持って活動できました。
- ・「居場所」について、異種の方との出会いを通じて考え方が変わりました。
- ・MVの完成度はもう少し上げられたと思う。次は、更に美大生の子や衣装にも人をつけてコミュニティを広げられれば更にいい作品を子どもたちに見せられると思いました。
- ・HIPHOPはまったく分からない世界だったのですが、生活の中から生きていく中から出てくる声を表現する場。すごいと思いつつながら見ていました。言葉は歌詞を見ないと分からなかったのですが、歌詞を読むと、余計命の声の表現だと感じました。「居場所」を求める人と、この表現の世界は繋がると感じます。

## 金石町家(仮)

### ● イベント別の地域属性 有効回答数:ダンボールシアター26、札幌ハムプロジェクト32、コンテンポラリーダンス9



### ダンボールシアター『Yummy!』

- ・食べ物や動物たちに至るまで、とても可愛く手作りされていて、次から次に出てきてドキドキ・ワクワクしました！今回初めて知ったので、1回目と2回目を逃したのが残念です。次があればまた来ます！
- ・お友達から「絶対好きだと思うから見て！」とオススメされて見に来たのですが、こんなすごいもの好きじゃない人間はいません！！老若男女全ての人にオススメしたくなりました。

### 札幌ハムプロジェクト『ナゾのまじんきたる』

- ・かんどうてきでした。はくりよくがすごくて、とってもりあるで、とってもたのしくて、もっともっとやってほしいです！
- ・演劇空間と実際の生活時間の境界線がなく、とてもわくわくしました。子供がいろいろな言葉をはさんでしまいましたが、即興的なやり取りがより境界線をあやふやにするのだらうなと思いました。